

理解度&釣れる度100%

丸

マルキュー

優良 餌本



実寸大
エサ付け
&
オモリ
解説付き

サエサ パワーブック

POWERBOOK

2009

冬



冬の釣り攻略号

釣れるブレンド完全網羅!



へらエサ POWER BOOK

2009



28
チョーチンのセット釣り
(ウドンセット&
グルテンセット)

34
レンジで簡単!
「魚信」の作り方

02
アウトライン
冬のへら鮒釣り

04
ウドンセットの浅ダナ釣り

09
バランスの底釣り

16
段差の底釣り

22
沖打ちの宙釣り
(両グルテン&
グルテンセット&
ウドンセット)



アウトライン

冬のへら鮒釣り

●年内のへら鮒釣り

ひと口に冬の釣りといっても、活性が残っている年内と食いが極度に低下する厳寒期の釣りとに分かれる。年内は新べら放流の時期と重なるが、最近の管理釣り場の新べらは大型化し、これだけにターゲットを絞るのはむずかしい。

それでも放流直後は両グルテンの釣りで大釣りに結び付くことがある。大きめのウキで、ハリスが50〜60cm、抜けのいいグルテンで大型を狙うのが一般的。ただ、近年では「グルテン四季」に「わたグル」をブレンドした、ハリ持ち重視のグルテンエサも効果を上げている。この場合は、浅ダナのセットの釣りに使うぐらいのウキが目安で、ハリスは

30cmと45cmといった短いものとなる。

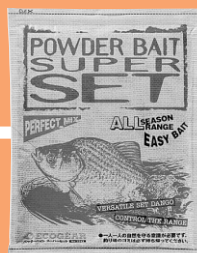
旧べら釣りでウキの動きがいいのは、やはり浅ダナのウドンセット釣りだ。以前ではバラケを途中で抜く、ゼロなじみ釣法が良かったこともあったが、現在ではバラケをいったん深くなじませて抜く釣りへと変わってきた。なじんですぐに抜くものからジワジワとトップが上がるものまで状況によって変わってくる。そのポイントになるのが「粒戦」と「パワー・X」。このエサ使いが釣況のカギを握っているといっても過言ではない。

また、型が揃う釣り方としてチョーチンのセット釣りも見逃せない。上ズリやすいへら鮒をタナに集めるにはトップをしっかりとなじませるのが

ウドンセットの浅ダナ釣り

(タナ1m前後)

●大きさを持たせ方を調整できるバラケ
セット専用バラケ200cc＋
GTS200cc＋粒戦50cc＋
パウダーベイトスーパーセット
200cc＋水200cc



●作り方

すべてのエサをボウルに入れ、水を入れて指を熊手状にして30回くらいかき回す。充分に吸水させるため、しばらく放置する。

●特徴

1m位のタナで持つか持たないかの微妙なタッチを表現。エサの大きさを、持たせたり、抜いたり調整が可能。

●使い方のコツと手直し

まずは、そのままハリ付けして打っていく。大きさと指圧で抜ける位置、抜けるタイミングを調整。手水をつけて軟らかくすると、さらに抜けが加速する。持たせたいときは、「パウダーベイトスーパーセット」を少しずつ加えて、持つタナの位置を下げていき、持ってから抜けるタイミングを計ってアタリが出る位置を探っていく。

●バラケの大きさ 実寸大



●タナに凝縮させるパワー系 パワー・X400cc+ガッデン 400cc+浅ダナー一本200cc+ 粒戦100cc+水200cc



●作り方

すべてのエサをボウルに入れ、水を入れて指を熊手状にして40回くらいかき回す。充分に吸水させるため、しばらく放置する。

●特徴

そのままの大きさとタナまで行き、プワッとバラけるので、狙うタナにへら鮎を大量に寄せることができる。

●バラケの大きさ 実寸大

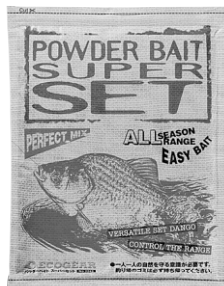
大きめ

小さめ



●使い方のコツと手直し

エサの圧と大きさでなじみ幅をコントロールする。大きいほうが良い場合はウキが沈没しても構わない。その場合、引き誘いや縦誘いを応用する。持ち過ぎる場合は、手水で軟らかくしていく。持たせたいときは「パウダーベイトスーパーセット」を加える。



くわせエサ 魚信1分包+水85cc

●ポイント

くわせエサのウドンはへら鮎の煽りなどで抜けてしまうようではダメなので、もし抜けてしまうようなら硬めで作ること。ノーマルのセットなら6mm径、パワー系ならひと回り大きい7mm径が大きさの目安だ。

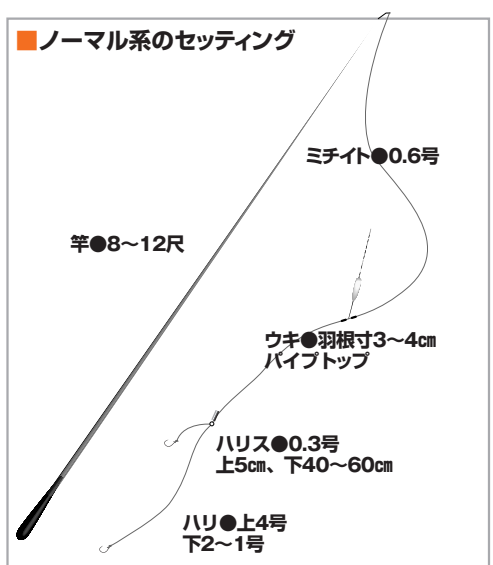
季節が進み、水温も下がれば、極端な食い渋りなど低活性となるが、そういうときはくわせエサも軽くする必要があり、「感嘆」や「力玉」の出番。また、くわせエサだけの状態でカラツンが目立つときは、色々なものを試してヒット率のよいものを探すのもポイントだ。



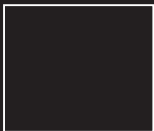
■パワー系のセッティング



■ノーマル系のセッティング



●オモリ 実寸大



0.25mm厚
板オモリ
17mm×20mm

●オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ
5mm×10mm



8mm×17mm

●釣り方のコツ

近年、人より多くのへら鮒

を寄せて釣っていくパワー系と呼ばれるウドンセットが流行している。しかし、いつでもその釣り方が有効なわけではなく、魚の活性などに合わせ、確な判断をしていくことが大切で、ノーマルとパワー、あるいはその中間的な範囲と、その日に合う釣り方を探っていく。

基本的に、ノーマルなウドンセットは、仕掛けバランスも繊細でバラケも小さく、少なく寄せて確実に拾う釣り方。一方、パワー系は大仕掛けで沢山寄せて、魚の競い食いを能動的に作り出す釣り方である。同じウドンセットでも釣り方に幅があるので、この両極を覚え、さらに釣況に合わせてアレンジしていくのが、難しくなったメーターウドンセットを攻略するコツである。

それぞれの釣りのポイントを記すので、ぜひマスターしてもらいたい。

●ノーマル系ウドンセット

寄せを意識しないので、より魚が回遊しやすいエリアにエサを落とすことを考えたい。そんな上でも、ポイント選りも重要となってくる。その上で、バラケのタッチを繊細に合わせる。

また、仕掛けバランスをとことん合わせる。さらにアタリの取り方を慎重にし、スレにならないように細心の注意を払う。しっかりと確実にポイントで、丁寧なエサ付け、エサ打ち、なども重要となってくる。

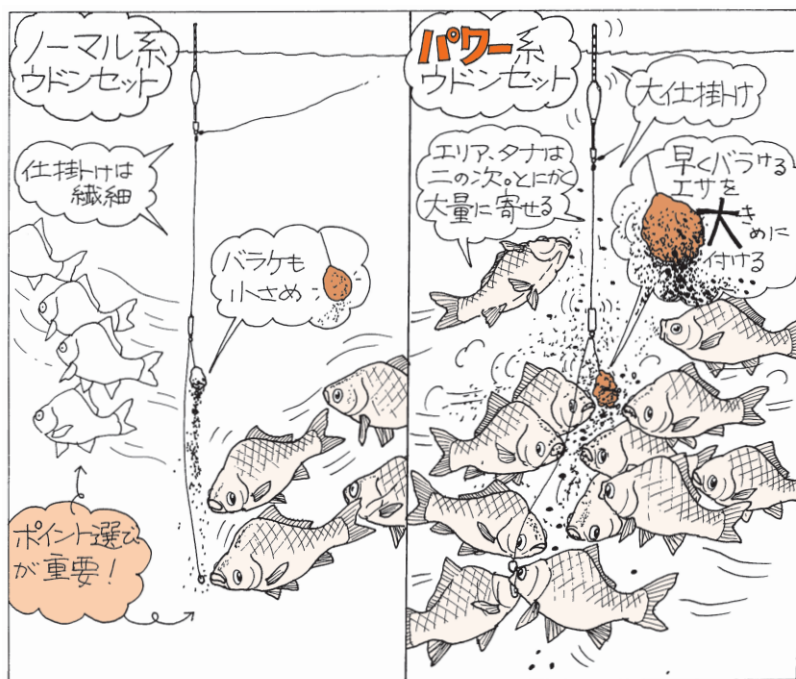
●パワー系ウドンセット

エリアやタナは二の次とし、ウキの周りを養魚池状態にすることを考える。大量に寄せるにはバラケの早いエサを大きく付けることが大切だ。

さらに、沢山寄せた魚に負けないオモリ附加の仕掛けバランスを取ることに。

最後に細かいアタリに手を

出さず、これは間違いないと言える力強い食いアタリに絞って合わせていくことも重要となる。



ここがQ&A ポイント1

サワリがあるのになかなか食いアタリがでないとき

サワリがあるのにアタリがでないときは2通り考えられます。

ひとつは、バラケが持ち過ぎていて食いアタリがでない場合で、このときは、バラケが抜け落ちるのを早めるため、手水を付けてバラケを軟らかくします。

もうひとつは、バラケの抜け落ちが早過ぎて食いアタリがでない場合があります。そんなときは「パウダーベイトスーパーセット」を振り掛け、さっとかき回します。ややまとまりのある素材を加え、バラケのまとまりをだしてやるのです。



ここがQ&A ポイント2

アタリがあるのに釣れないとき

原因は5通り考えられます。

- ①下ハリスの長さが長過ぎる場合
これは3cmずつ短くすれば良いでしょう
- ②下ハリスの長さが短過ぎる場合
思い切って10cm長くしてみましょう
- ③くわせエサが大き過ぎる場合
これは小さく付けてみて効果があるようでしたら、同時にハリも小さくすると良いでしょう
- ④バラケエサを小さくしすぎた場合
バラケエサを小さくしたことで、食い気のあるへら鮎の寄りが減ってしまい、カラツンが続いてしまうことがあります。タッチを少しバラけやすくして、やや大きめに付けて様子を見ましょう
- ⑤ウキの浮力が大き過ぎる場合

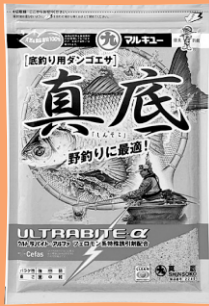


上の4つの対処をしてもどうしても解消できないときはこれが原因です。したがって、ウキをワンサイズ小さくしてみましょう。

バランスの底釣り

●ペレット系の両ダンゴ

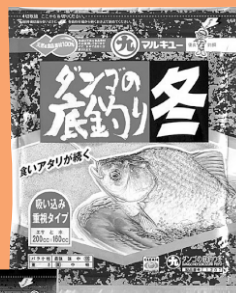
真底100cc＋ペレ底100cc＋
ダンゴの底釣り冬100cc＋
粒戦細粒30cc＋水150cc



+



+



+



+



●作り方

「粒戦細粒」を最後に入れるのがポイント。重たいので始めに入れるとボウルの底にたまり均一なエサができないため。水を加えたら10回ほど軽くかき混ぜて水分を浸透させる。

●特徴

重さがあるので上ズリやすいへら鮎を底に集魚するのに最適。「粒戦細粒」の粒子が底にたまり、へら鮎を寄せながら釣ることができる。

●使い方のコツと手直し

基エサ全体3分の1を小分けし、手水を打ちながら押し練りを数回繰り返したものをパチンコ玉大にエサ付けする。なじみ幅が少なければ押し練りを加えいく。ネバリがでたら基エサを合体させて開きを良くする。

●エサの大きさ

実寸大



●両グルテン

グルテンα21 50cc + いもグルテン50cc + グルテン四季50cc + 水170cc



+



+



●作り方

粉のうちに良く混ぜて、水を加えたら素早くかき混ぜて3分放置。全体が固まったら振り起こす感じでア어를絡める。

●特徴

「いもグルテン」の重さと「グルテン四季」の膨らみの良さとで、底に着いてから急速に膨らんでへら鮎を寄せ、早いアタリがでる。

●使い方のコツと手直し

全体の4分の1ほどを手の甲でアeer抜きし、つまんだものを形を整えてパチンコ玉大にエサ付けする。持ちが弱ければ指先で丸める回数を多くしてなじみ幅を調節する。持ちが良過ぎる場合は手揉みの回数を少なくするか、基エサに切り替えて新たに調節する。



●エサの大きさ

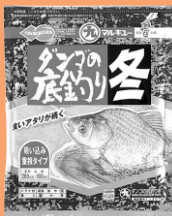
実寸大



● バラケにグルテンのセット釣り

ダンゴの底釣り冬100cc+
ペレ底100cc+真底50cc+
粒戦細粒30cc+
バラケマツハ100cc+水180cc

バラケ



●作り方

全体を良く混ぜ、水を加えたら熊手状の指で10回ほど混ぜて水分が浸透したら1、2分放置。全体が縮まったら端からつまんで使用。

●特徴

「ペレ底」、「真底」の集魚力に加え「粒戦細粒」がへら鮎を底に落ち着かせる効果がある。軽く手揉みすると底に着いてからの膨らみが良く早いアタリが狙えるだけでなく、揉み込みを強くすれば待ち釣りにも対応できる。



くわせ グルテンα21 50cc+水70cc



●バラケエサ・使い方のコツと手直し

打ち始めは基エサを軽く丸めてパチンコ玉大にエサ付け。トップの戻りが遅ければ手水を付けて数回押し練りをして軟らかく調整する。軟らかくしすぎたときは、使っているエサに手水を1回打ち、同量の基エサを合体させて硬さを調整する。粘りがでたときも、同様の手順で開きを良くする。

●特徴

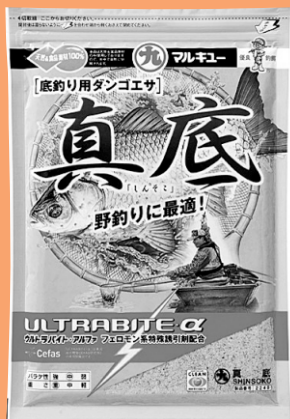
繊維がしっかりしているのでハリ持ちが抜群にいい。水量を変えれば硬いグルテンからペトグルまで応用範囲が広い。

●エサの大きさ 実寸大



●グルダンゴ

真底150cc＋ グルテンα21 50cc＋ 水150cc



+



+



●作り方

水を加えて指先で20回ほどかき混ぜて3分放置。全体が固まったらエアを絡める感じで掘り起こしてボウルの隅に寄せる。

●特徴

繊維がしっかりしている「グルテンα21」と集魚力が高い「真底」とのブレンド。食いに応じて極めて軟らかいエサでもハリ持ちがよく明確なアタリがでる。

●使い方のコツと手直し

基エサ全体の3分の1を小分けし、数回押し練りしたものをパチンコ玉大にエサ付けする。サワリだけでアタリがでにくい場合は手水を打ち数回押し練りを加えて軟らかくしていく。ネバリがでたときは手水を1回打ち、同量の基エサを合体して調整する。

●エサの大きさ

実寸大



●釣り方のコツ

●両ダンゴ

底釣りはきっちりとしたエサ落ち目盛りと正確な水深測定が出発点になる。そのためこれらの作業は時間がかかっても正確におこなうことだ。とくに野釣りの底は起伏に富

んでいる。エサ打ち点だけでなくその付近4ヶ所（前後左右）の水深も把握しておこう。始めは硬めの基エサをしっかりと付けてなじみ幅の確認。そこからじっくりへら鮒を寄せていくのが底釣り。アタリを早く出そうとしてエサを必要以上に軟らかくしないこと。

手水を付けて軟らかく調整する場合、段階的に軟らかくするが、なじみ幅が浅くならないよう注意したい。

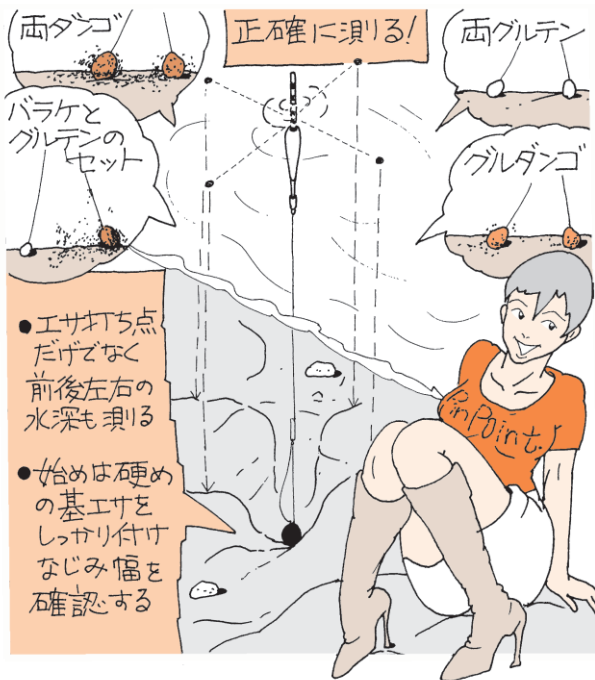
●両グルテン

状況により重たいグルテンがいい場合や、繊維を強くしてハリ持ちを良くしたいときなどは強く練り込んで持たせるのではなくブレンドを変えて対応するのが原則。ただし軟らかいペトグルがいい場合は始めに基準水量で作ったものに手水を打って軟らかくしていく。ここで始めから水量を多くして作るとハリ持ちが弱くなるので気を付けたい。

幅を多くしていく。サワリだけでアタリが出ないというのはずらし幅が少ないためだ。ずらし幅が多くなるとアタリは小さくなる。チツと入るアタリだけでなくフツと抑えるような動きも見逃さないことだ。

●グルダンゴ

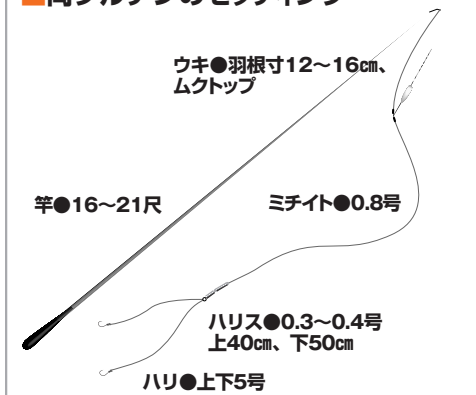
麩とグルテンに水を入れて混ぜるとき、全体に水分が浸透する程度に10回ほど混ぜるだけにとどめる。始めから強く練りこむと開きが極端に悪くなるので要注意。ハリ付けはグルテンと同様にエサの下から引き抜くようにセットする。寄せながら食わせるエサなので必要以上大きなエサはアタリが遅くなるカカラツンがでやすくなる。打ち始めのなじみ幅が浅くならないよう、小さめのエサでテンポよく打ち返すことだ。



●バラケとグルテンのセット釣り

ポイントはずらし幅。グルテンエサは軽いためスタートからずらし幅を上バリ3〜5cmずらしに設定する。その後、アタリの出方に応じてずらし

■両グルテンのセッティング



■両ダンゴのセッティング



グルテンエサは軽いためなじみ幅が浅いのが特徴。1~2目盛りの範囲となるのでウキはムクトップが釣りやすい。ムクトップは長時間水に浸るとエサ落ち目盛りが変わるものもあるので、おかしいと感じたら再確認が必要だ。新べら放流後など、へら鮒の寄りが良いときはグルテンがハリ抜けてアタリがでないことがある。小さいハリほど吸い込みがいいと考えやすいが、エサ持ちを重視して5号を基準としたい。

●オモリ 実寸大

18尺時
絡み止め
タングステン
オモリ
+

0.25mm厚
板オモリ
17mm×25mm

ウキは水深に見合ったものより1ランク大きなもので、タナ近くまで早く落下させる釣り方がいい。ムクトップとパイブトップでは好みによって変わるが、まずまず食いがよければムクトップがお勧め。渋くてアタリのでるのが遅いときはパイブトップでバラエエサがジワジワと開くようゆっくり戻すリズムで釣りたい。加えて冬は風が強い日もある。こんなときは抵抗を受けやすいムクトップよりパイブトップが釣りやすくなる。最近はハリスが40cmと48cmといった長い傾向があるが、あくまでへら鮒の寄り方と活性に応じて長さを調節する。

●オモリ 実寸大

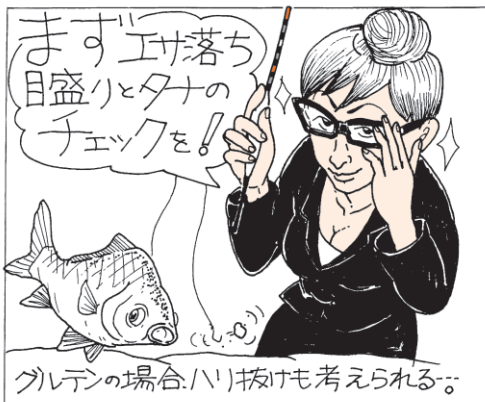
16~18尺時
絡み止め
タングステン
オモリ
+

0.25mm厚
板オモリ
17mm×20mm

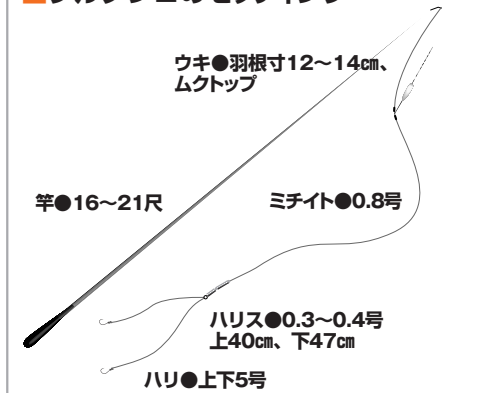
ここが Q&A ポイント

1 サワリがあるのになかなか食いアタリがでないとき

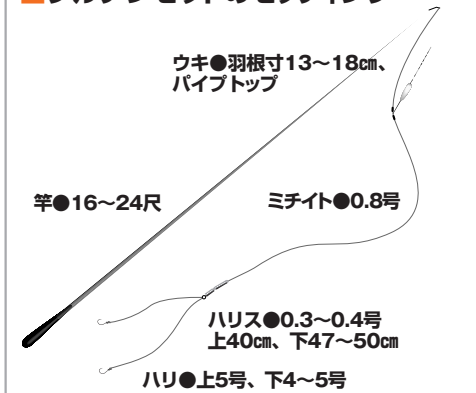
まず初期のセッティングと合っているか、エサ落ち目盛りとタナのチェックをする。これが合っていれば、次にエサの手揉みを多くしてしっかりエサ付けしてみよう。もしくは、なじみ幅が少なくなる範囲でエサを小さくハリ付けする。とくにグルテンエサの場合はへら鮒が大型化しているので、あおりによるエサ抜けが考えられる。それでもアタリがでないときは、1~2cmずつタナを深くして様子を見ていこう。



■グルダンゴのセッティング



■グルテンセットのセッティング



両グルテンの底釣り同様、繊細なアタリを狙うため、タナの狂いが少ないミチイトを選択する。エサが軽いのでなじみ幅がやすいムクトップが釣りやすいが、復元力を重視するためエサ落ち目盛りはトップ付け根から2~3目盛りしずんだ位置に決める。このとき、トップ径が太いとなじみ幅がでにくく弾むような動きが強くなるため、細めのトップがおすすめだ。

●オモリ 実寸大

18尺時
絡み止め
タングステン
オモリ
+
1g

0.25mm厚
板オモリ
17mm×25mm

野釣りが中心になるため、底の状態によりハリス段差を変えていく。ほぼ平坦なら6~7cmで急な斜面では8~10cmに広げてくわせエサだけは必ず底に着くこと。なじんだトップが戻り始めてからのアタリを狙うのがセオリーなのでウキは復元力が強いパイブトップが釣りやすい。水深が5m以上の深場の底ではくわせエサをしっかり持たせるため、5号のハリが安心だ。

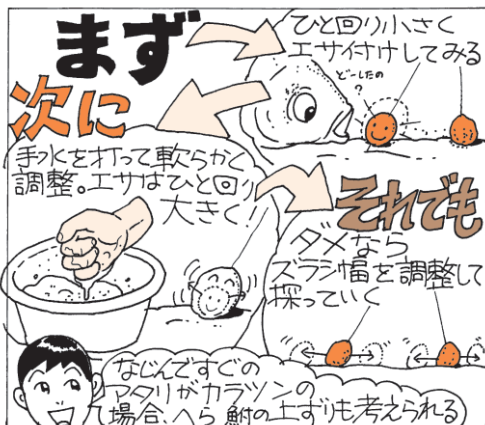
●オモリ 実寸大

19尺時
絡み止め
タングステン
オモリ
+
1g

0.25mm厚
板オモリ
17mm×30mm

ここが Q&A ポイント2

アタリがあるのに釣れないとき



いい感じでサワリがでて、ここ一番のアタリが空ブリする対処法は、いきなりエサを軟らかくせずにひと回り小さくエサ付けしてみよう。それでも効果がなければ手水を1回打って軟らかく調整する。軟らかくなった分バラケ性が増すので、逆にひと回り大きなエサで様子を見る。それがだめならずらし幅を調整してヒットゾーンを探っていく。なじんですぐのアタリがカラツンになる場合は、へら鮎の上ズリが考えられる。しっかりなじませてエサ落ち間際のアタリを狙ってみたい。

段差の底釣り

● 混雑時や超食い渋り時のバラケ

(8~13尺のくらいの比較的水深が浅いところ向き)

新B400cc + バラケマツハ400cc + 水200cc (ここで50回以上練り切る)
水100cc + スーパーダンゴ300cc



● 作り方

「新B」と「バラケマツハ」に水を入れ、ここで50回以上、麩の粒子が潰れるまで完全に練りきる。それを水で戻した後、「スーパーダンゴ」を混ぜ合わせる。これとは別に、「粒戦」100ccに水50ccで浸したものを用意する。

● 特徴

一旦麩を練り切るのので、バラケに芯ができ、糸を引くような細かいバラケ方をするので、なじんだウキがジワジワっと上がる動きが演出できる。

● 使い方のコツと手直し

最後に入れる「スーパーダンゴ」の量で硬さを好みに調整する。できあがりでもよい。もっと、魚を寄せたい、エサを開かせたいと思ったら、これに、別作りの「粒戦」を入れていく。

別のボウルに

粒戦100cc + 水50cc



● バラケの大きさ

実寸大



● 平日や高活性向きのバラケ

(15~21尺くらいの比較的水深が深いところ向き)

段底600cc + ペレ道200cc + 水200cc + バラケマツハ200cc



別のボウルに

粒戦100cc + 水50cc



● 作り方

「段底」と「ペレ道」に水200ccをいれて全体を良くかき混ぜる。そこへ「バラケマツハ」を入れ、全体にいきわたるよう大きくかきまぜる。これとは別に、「粒戦」100ccに水50ccで浸したものを用意する。

● 特徴

「ペレ道」が入っているので重さがあり、水深が深いところに対応できる。比較的抜けが良く、塊のまま下方へ落ちていくイメージのバラケで、底へエサを溜めて釣っていくタイプ。早めにくわせのウドンだけにして釣っていくときに適している。

● 使い方のコツと手直し

最後に入れる「バラケマツハ」を「スーパーダンゴ」にすると少し軽く仕上がり、「パワー・X」にするとより開きや寄せを強調したエサとなる。下方へ魚を向けたいときに、別作りの「粒戦」を入れて調整していく。エサが重くて沈没するならエサの大きさを調整しよう。

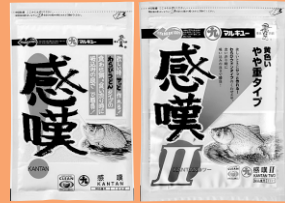


● くわせエサ

うどん



魚信1分包+
水70~80cc



グルテン

グルテンα21 50cc+
水50cc

わたグル50cc+
水50cc



●ポイント

くわせエサの選び方としては、エサ持ちがよく、魚の煽りなどでもハリに残っていることが必要で、タビオカ系ウドンの「魚信」がベターだ。安定剤の「特選わらび職人」を絡めておけば変化なく安心して使える。ただし、その日の食い気や釣況によって「魚信」より軽い粒状くわせの「力玉」やインスタントウドンの「感嘆」がよいときもあるので、必ず準備だけはしておくこと。加えて、「力玉」を「わらび職人」に浸け込んだものもあれば安心だ。

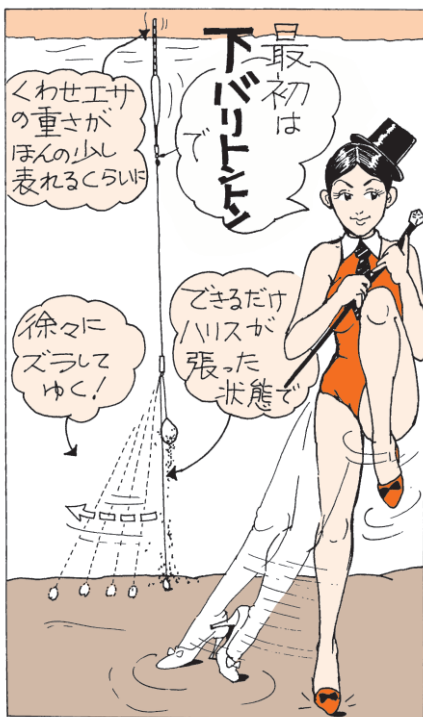
また、新べらが底に多い、あるいは底の状態がかなり凸凹している、ヘドロが大量であるなどの条件では、グルテンエサが有効の場合もある。このときのグルテンエサは、うどんの変わりという観点から固形に近くということで、エサ持ちの良いものをやや硬めに作り小さくハリ付する。また、グルテンエサは少量ずつ作り、こまめに作り替えるほうが望ましい。



●釣り方のコツ

段差の底釣りは、冬場の低活性など渋い状況で効果的な釣り方。基本的にウキが激しく動く時期ではないので、確実に釣っていくという心構えを頭に入れておくこと。その中でも少しでもウキを動かしていくことが大切で、エサも重要であるが、セッティングにも気を配りたい。

まず、底立てで一工夫したい。下バりを底に付けること



が前提だが、スタート時はできるだけウキが動くタナ設定が必要で、下バリトントンから始めたい。ウキの目盛で言えば、くわせエサの重さがほんの僅か表れる（なじみがでる）タナ設定だ。ここからスタートして、徐々にズラしていく。サワリやアタリをできるだけ多くする設定から始めるということ。ここでは合わせすぎてしまうと、ハリスの弛みが多くなり、サワリやアタリがウキに表れないこともあ

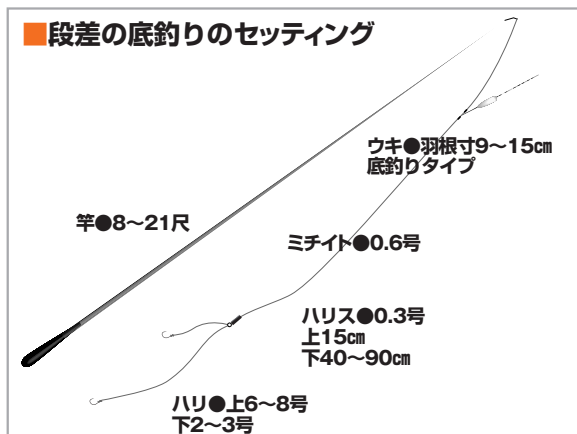
るので、できるだけハリスが張った状態で釣っていくのがコツである。

このとき、下ハリスは60cmから始めて様子をみていく。長さの目安としては最長で90cm、最短で40cmと覚えておく。40cmより短くても釣れる場合は、バランスの底釣りでは

も釣れる場合なので、無理に段差の底釣りにこだわる必要はないだろう。

理想的なウキの動きとしては、サワリが少なめで深くなじみ、ウキの戻りとともにサワリがでて、エサ落ち目盛り付近まで戻してから、するどい力チツとしたアタリがでる

■段差の底釣りのセッティング



●オモリ 実寸大

絡み止め
タンクステン
オモリ



0.25mm厚
板オモリ
17mm×10~30mm

というものだ。

ただ、いつでもそうなるわけではないが、一定化した動きで釣れるので、釣れるときはこの動き方というのをパターンとして覚えておくことが重要。その日はどういう動きで釣れるのかを見つけていくことが必要となってくる。

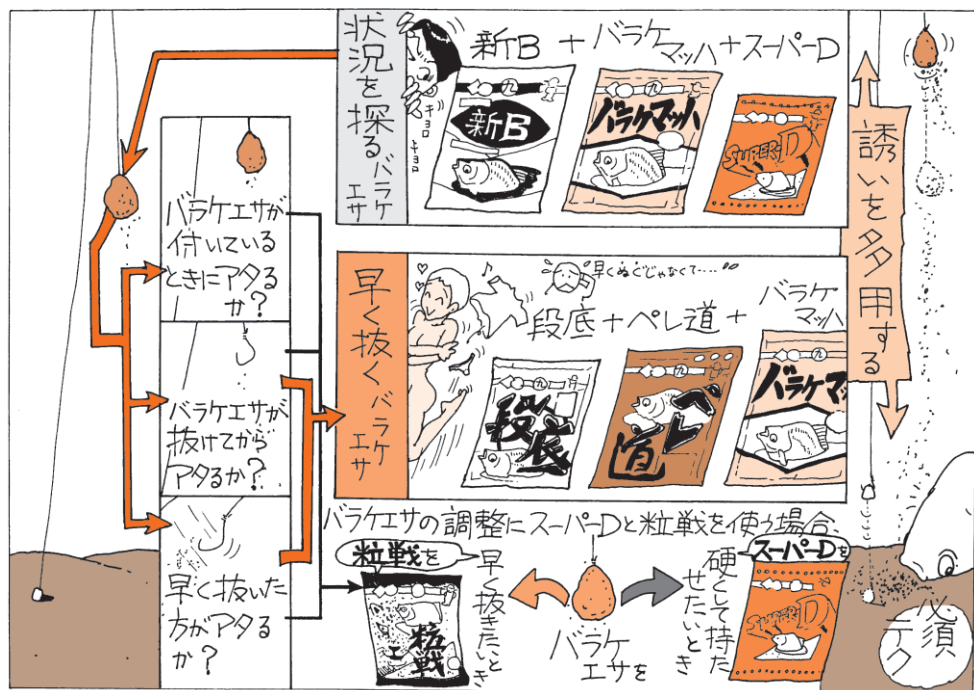
そこで、バラケが付いているときにアタるのか、抜けてからアタるのか、早く抜いたほうがアタるのかを見極めていく。どつぷり入れていくときは宙釣りの感覚で、いいアタりに絞り、バラケが抜けてからは底釣り感覚で、小さいアタリやムズなどにも手をだしていく。そうしてアタるパターンを見つけていくことが重要となってくる。

状況を探るには、エサがハリに残りやすい「新B」＋「バラケマッハ」＋「スーパーダンゴ」のバラケが使いやすい、意図的にバラケを早く抜

いて、くわせエサだけの状態にするには、「段底」＋「ペレ道」＋「バラケマッハ」のバラケを使うとよいだろう。

バラケエサの微調整としては、「スーパーダンゴ」と「粒戦」を軸として、エサをもたせたいときは、「スーパーダンゴ」を足して硬さで持たせる、開かせたい、早く抜きたいときは「粒戦」を入れる量で調整していく。

また、誘いも多用したい。ウドンだけになっても、底へ溜まったバラケに寄せられたへら鮒がヒットするのが、この釣りのメリットでもある。手前に引いたりしてテンションを緩めたり、縦誘いでアピールしたり、完全にくわせエサを持ち上げ、置き直したりなど、色々なパターンを数回繰り返すことで、これがヒットパターンにもなるので、試してみよう。



ここが Q&A ポイント1

サワリがあるのになかなか食いアタリがでないとき

まずは、くわせエサが抜けてしまっているのではないかを疑います。くわせエサが持ってなければアタリはできません。ウドンだけになったとき、そっと竿を上げてきてハリにしっかり付いているか確認します。また、ハリ先をだすようにウドンを付けること。これはヒット率にも繋がるので、気をつけましょう。

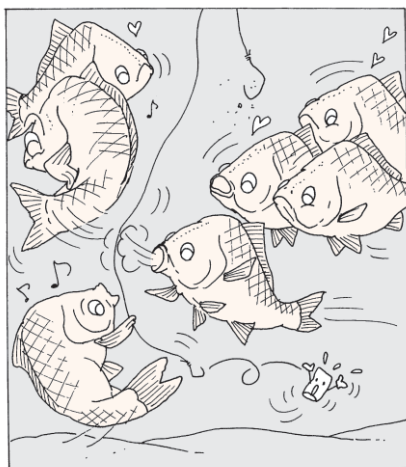
次に、下バリが底から切れていないかを考えます。くわせエサだけで、なじみ幅が多くであるのなら、底から切れている可能性があるため、タナを測り直します。

最後に、バラケエサのバラけすぎが考えられます。どうしても魚を寄せようという意識が強いため、バラけさせすぎてしまいがちです。このときは、①エサを小さく付ける。②エサを練る。③エサを硬くする。この順番で調整してみてください。



ここが Q&A ポイント2

アタリがあるのに釣れないとき



まずは、魚がはしゃぎすぎたり、寄せすぎたためにイトズレにアワせてしまっている可能性があります。Q1のバラケエサのバラけすぎと同様の対応を行います。また、これもQ1と同様にくわせエサが抜けてしまっていることも考えられますので、くわせエサの確認もしてください。

次に、タナが合っていない可能性があります。これはズラしが少ないので、1cmずつタナを深くしていきます。さらに、ハリス段差があってないこともあります。動きがでる長さや釣れる長さのハリスワークも必要です。サワリは充分でも食いアタリがでないときは、煽りの動きだけがでているので、ハリスを短くします。これでサワリが減ってしまうようなら、ハリスの長さを変えずにハリを重く（大きく）してみましょう。

沖打ちの宙釣り

(両グルテン&グルテンセット&ウドンセット)

グルテンセット ● 使いやすいネバボンバラケ

段差バラケ400cc + 新B200cc + 天々200cc + 浅ダナー一本200cc + 水200cc



●作り方

すべてのエサをボウルに全部入れかき回し、水を加えて、指を熊手状にして30回くらいかき混ぜる。

●バラケの大きさ

実寸大



●特徴

「段差バラケ」と「新B」といった開いて寄せ効果の強いものを、「天々」と「浅ダナー一本」でまとめたボンネバの標準的なエサ。



●使い方のコツと手直し

丁寧付け、ラフ付けといった付け方によるバラケの違いが表現しやすく、大きめに使うのが良い。

ダンゴエサと同じで、持たせたいときは「パウダーベイトスーパーセット」を加えるとか、手水で軟らかくするなどダンゴ感覚で調整する。



グルテンセット ● くわせエサ

グルテン α 21 50cc + 水60cc



●ポイント

200ccカップに水を入れ、そこに粉を加えて蓋をしてシェイク。使い方のコツは、いじらず、端から摘んでつける。始めは硬めに作り、小さめにハリ付けする。

ウドンセット ● くわせエサ

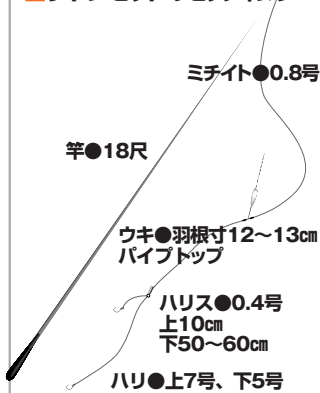
特選わらび彩1分包 + 魚信1分包 + 水170cc



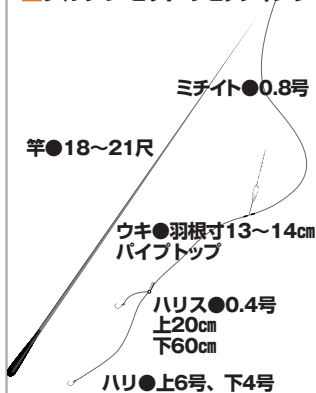
●ポイント

作る際に固まってからはあまり練り込まないこと。太さは7~8mmと大きめ。

■ウドンセットのセッティング



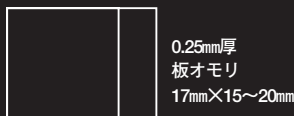
■グルテンセットのセッティング



■両グルのセッティング



●オモリ 実寸大



●オモリ 実寸大



●オモリ 実寸大



ウドンセット ● タナに多く寄せて釣るバラケ

粒戦100cc + 水200cc +
パワー・X400cc + GTS400cc +
浅ダンナー一本200cc



●作り方

「粒戦」100ccを水200ccで溶いておき、そこに「パワー・X」、「GTS」、「浅ダンナー一本」の順でエサを加え、指を熊手状にして30回くらいかき混ぜる。

●特徴

塊のままタナまで入り、やや耐えながら、ズルツと抜けるバラケ。

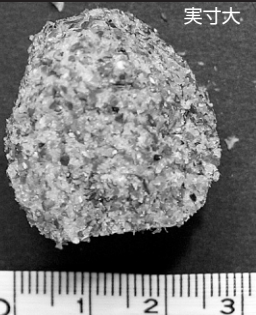
●使い方のコツと手直し

この釣りのイメージは、やや大きめにバラケを付け、寄せを意識した釣り方だ。アタリが少ないなど、早くバラケさせたいときは手水で軟らかくしていき、じっくり持たせたいときは、「パウダーベイトスーパーセット」を100cc加える。



●バラケの大きさ

実寸大



両グルテン ● 新べら狙いの両グルテン

① 新べらグルテン200cc + 水200cc + グルテン四季50cc



●作り方

「新べらグルテン」200ccに水200ccを加えかき回す。グルテンが半分くらい水を吸い込んだら「グルテン四季」50ccを加え、指を熊手状にして10回くらいかき混ぜて放置。

② 新べらグルテン100cc + 新べらグルテン底100cc + 水200cc



●作り方

「新べらグルテン」100ccと「新べらグルテン底」100ccをボウルに入れて混ぜておき、そこに水200ccを加え、指を熊手状にして10回くらいかき混ぜて放置。

③ 本グル150cc + マッシュポテト50cc + 水200cc



●作り方

「本グル」150ccと「マッシュポテト」50ccをボウルに入れ軽く混ぜ、水200ccを加え、指を熊手状にして15回くらいかき混ぜて放置。

●特徴

- ①は軽くて、バラケが早い。
- ②は、①よりも重さがあり、やや深いタナや、ジャミ、コブナが多いところに効果がある。
- ③は、軽く、やや繊維が多いので、軟らかいタッチや新べらと旧べらともに食いが立っていて、うるさいときに効果的。

●使い方のコツと手直し

- ①は、硬くしたり練りこんだりと、ダンゴ感覚で使えるグルテンエサ。
- ②は、端からつまみ、付け方でアタリを調整する。
- ③は、基エサから軟らかい方向への調整ができ、ペトコンまでいけるタイプ。

●エサの大きさ

大きめ

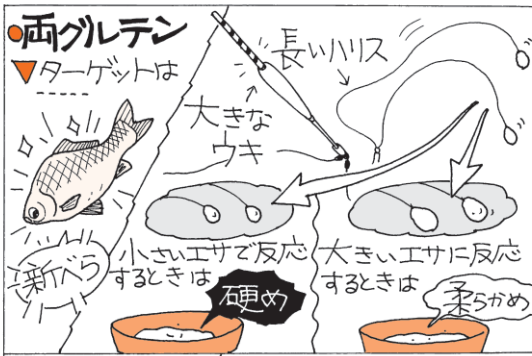
実寸大

小さめ



●釣り方のコツ

放流された新べらは、沖めや底へ溜まる傾向がある。また、放流後にすぐエサを食わなかった大型も同様の傾向がある。それを狙っていくのが、長竿での沖打ちの釣り。新べらの量の多少で、両グルテン→グルテンセット→ウドンセットと釣り方が変化していく。



●両グルテン

両グルテンは新べらのようなまだ口を使ったことがない魚を狙う釣りなので、大きなウキでの釣りが有効。大きいウキで長いハリス、大きいハリ、大きなエサが基本設定だ。グルテンのタッチによって、アタリが出たり出なかったりするが、この際は、エサを手直ししながら釣るのではなく、



●両グルテン

作り替えて対応していく。また、小さいエサで反応するときは基本的に硬めがよい。逆に大きめにして反応するときは、基本的に柔らかめと判断しよう。

●グルテンセット

グルテンセットは、新べらとともに口を使っていなかった旧べらもターゲットとなる。



したがって、両グルテンに比べ、やや小さなウキを選択しよう。

くわせエサのグルテンは、あくまでもハリに付いていることが前提となるので、硬めをシッカリとハリ付けて打つことが基本だ。

●ウドンセット

この釣りのイメージは、短竿のウドンセットのパワー系の大型べらバージョン。しっかりしたエサでないと振り込めないで、硬めのエサでバラケを調整する素材選びが大切だ。

ときに大バラケでも、タナまで持たないような抜けるバラケが効果的などときがあるので、アタらないときはまずバラケの手直しを考えよう。

いずれにしても、じっくりとバラケを打ち、大型べらを自分のところにしっかり寄せ切ることが大切だ。

ここがQ&Aポイント①

サワリがあるのになかなか食いアタリがでないとき

●両グルテンのとき

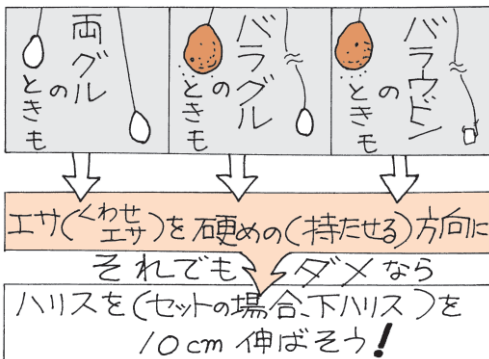
サワリや煽りなどで、肝心なところでエサが抜けてしまっている可能性があるため、エサを硬めに作りかえる。このとき、手もみで持たせる方法もあるが、これによって今度はサワリも減ってしまう可能性があるので注意したい。それでもアタリがでなければ、へら鮎の寄りが遠いと判断してハリスを10cmのばしてみよう。

●グルテンセットのとき

これも同様にくわせエサのグルテンを硬めに作り替え、持ちを良くしてアタリがでるようにする。また、バラケエサが開きすぎている場合もあるので、バラケエサを持たせる手直しをしよう。それでもダメなら下ハリスを10cm伸ばそう。

●ウドンセットのとき

こちらも同様にくわせのウドンが必ず付いているかの確認をしたい。そのあとで、バラケの開きすぎでへら鮎が遠巻きになっている可能性があるため、エサを持たせる手直しをしよう。それでもアタリがでない場合は、下ハリスを10cm伸ばそう。



ここがQ&Aポイント②

アタリがあるのに釣れないとき

●両グルテンのとき

両グルテンではカラツンは少ないと思うが、まずは手水で軟らかく手直ししよう。次にウキの浮力が大き過ぎる場合のカラツンがあるので、ウキを小さくしてみよう。

●バラウドンのとき

まずバラケエサを軟らかく。次に下ハリスを短く。そしてウキを小さく。

●バラグルレのとき

まずグルテンエサを軟らかく。次に下ハリスを短く。そしてウキを小さく。

●両グルテンのとき

両グルテンではカラツンは少ないと思うが、まずは手水で軟らかく手直ししよう。次にウキの浮力が大き過ぎる場合のカラツンがあるので、ウキを小さくしてみよう。

●グルテンセットのとき

まずグルテンをやわらかく手直ししよう。次に下ハリスを短くしていこう。そして、ウキを小さくしよう。

●ウドンセットのとき

まず手水でバラケを軟らかくしよう。次に下ハリスを短くしていく。



チョーチンのセット釣り (ウドンセット&グルテンセット)

ウドンセット ● オードックス系のバラケ

へらスイミー100cc + 水200cc +
段差バラケ400cc + 段底200cc +
バラケマッハ200cc



● 作り方

「へらスイミー」100ccに水200ccを入れてドロドロ状にする。そこに「段差バラケ」「段底」「バラケマッハ」を入れて全体的に大きくかき混ぜポソツとしたタッチに仕上げる。これが基エサ。後は小分けにしてなじみ幅を調整するが、バラケ性が強いのでしっかりとなじませるのがポイント。

● 特徴

バラケ性の強い粒子を「へらスイミー」で包み込み持たせている。また、ベースになっている「段差バラケ」は細かな粒子のために、手水を打って軽く練ることでまとまりの良いエサになる。「へらスイミー」は集魚性も高いので、狙ったタナに魚を落ち着かせる効果もある。

● バラケの大きさ



● 使い方のコツと手直し

基エサはあくまでも「ポソツ」に仕上げておくことが大切。なじみ幅がでないときには小分けにして「押し練り」(エアーを抜くようにエサの上部から数回押す)で重さをつける。次に魚がはしゃぎ気味のときにはポソツ気が強過ぎるので手水を打って数回軽く練る。指先にネバリを感じても「段底」がブレンドされているので、タナでの膨らみは残りバラケ性は失われない。

また、「バラケマッハ」200ccを「浅ダナー一本」200ccに替えると、さらにエサのタッチが滑らかになり、魚も落ち着く。ある程度魚が寄ってきたときにはこのブレンドもオススメだ。



ウドンセット ● パワー系のバラケ

粒戦50cc+とろスイミー50cc+
水200cc+バラケマツハ150cc+
軽麩150cc+セット専用バラケ150
cc+パワー・X150cc



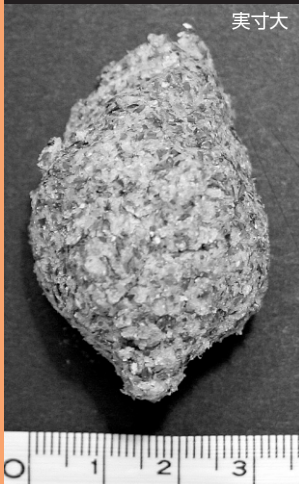
●作り方

「粒戦」50cc+「とろスイミー」50ccに水200ccを入れてドロドロ状にして2～3分放置する。そこに「バラケマツハ」「軽麩」「セット専用バラケ」「パワー・X」を各150cc入れて練らずに大きくかき混ぜ全体に水を浸透させる。バラケ性の強い「パワー・X」が完全に水になじめば基エサのできあがり。



●バラケの大きさ

実寸大



●特徴

パワー系でバラケ性の強いエサなので、基エサを小分けにして「粒戦細粒」を振りかけ、その「ネバリ」と「硬さ」でなじみ加減を調整する。「とろスイミー」がエサ全体をまとめて「軽麩」がタナで細かな粒子を漂わせ「粒戦」「粒戦細粒」が魚を刺激してくわせエサに反応させる。

●使い方のコツと手直し

バラケエサに強い反応を示してしまうときには、「エサの膨らみ」と「エサのタッチ」に変化をもたせる。そのときに使用するのが「粒戦細粒」で、バラバラ程度振りかけてバラケエサへの反応を抑えていく。反対に魚の寄りが悪いときには「セット専用バラケ」を振りかけながら開きを良くしていく。

ポソツ気のあるバラケエサなので、エサに「ギユ」と圧をかけてハリを差し込むようなエサ付け方法が良い。縦系に魚が寄るため、時合も壊れにくく良型が揃う釣りになればグッド。



グルテンセット ● タナが作れるバラケ

ダンゴの底釣り夏50cc＋
水200cc＋バラケマツハ400cc＋
GTS200cc＋ガッテン200cc



●作り方

「ダンゴの底釣り夏」50ccに水200ccを入れてドロドロ状にする。そこに「バラケマツハ」「GTS」を入れて30回くらい練る。次に「ガッテン」を200cc入れて今度は軽く全体的に大きくかき混ぜ水分を吸収させる。「ガッテン」を入れてからは練り込まずふっくらと仕上げるのがポイント。

●特徴

「ダンゴの底釣り夏」で重さをつけ、「GTS」がエサを膨らませる。エサ持ちを良くするために、一度練り込み、エサに芯を作るのがこのエサの特徴。しっとり系のエサのため、タナを作りやすく魚を落ち着かせることができる。

●使い方のコツと手直し

練って使えるエサなので、手直しは自在にできる。バラケ性を強くするときには「GTS」でエサを膨らませ、上ズリが強いときには手水を打ってから「ガッテン」を差し込んでネバリをだす。くわせエサがグルテンの場合は、バラケ性が強く膨らみ過ぎるエサよりも芯残りする位のダンゴっぽいエサのほうが良い。水深があるところ（18～24尺のチョー一チン）では「ダンゴの底釣り夏」を100ccにする。

●エサの大きさ

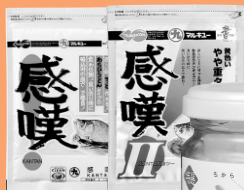
実寸大



うどんセット ● くわせエサ



魚信1分包+
水85~90cc



●ポイント

くわせエサはすべてやや硬めに作るほうがよい。基本は「魚信」で、追いが悪いようなら「感嘆」や「感嘆Ⅱ」を使う。この際は、大きさを色々と試してみよう。日によって「力玉」のほうがよい場合もあるので、用意しておこう。

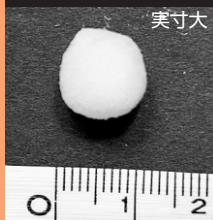
グルテンセット ● くわせエサ

本グル50cc+水50cc

●ポイント

「本グル」50ccに水50ccを入れて良くかき混ぜる。しばらく放置してから、ボウルの隅に寄せるようにまとめて使う。標準水量より硬めに作るのがコツ。くわせ系のグルテンエサは、タッパーに水と粉を入れてシェイクすると均一に作れるのでおすすめだ。

●エサの大きさ



■グルテンセットのセッティング

ウキ●羽根寸8~14cm
パイブトップ

竿●8~18尺

ミチイト●0.8~1号

ハリス●0.4~0.5号
上10~20cm
下40~80cm

ハリ●上6~7号
下4~6号

■パワー系のセッティング

ウキ●羽根寸8~10cm
パイブトップ

竿●8~10尺

ミチイト●0.8~1号

ハリス●0.4~0.5号
上10~20cm
下50~70cm

ハリ●上5~6号
下5~6号

■ノーマル系のセッティング

ウキ●羽根寸8~11cm
パイブトップ

竿●8~13尺

ミチイト●0.8~1号

ハリス●0.4~0.5号
上10~20cm
下40~60cm

ハリ●上5~7号
下2~4号

●オモリ 実寸大

0.25mm厚
板オモリ
17mm×25~40mm

●オモリ 実寸大

0.25mm厚
板オモリ
17mm×25~30mm

●オモリ 実寸大

0.25mm厚
板オモリ
17mm×20~30mm

●釣り方のコツ

●ノーマル系ウドンセット

基本的に、チョーチン釣りでは、一旦ウキを深くなじませて「タナに寄せる」ことが安定した釣果にもつながる。繁殖されたへら鮒は今回使用した「スイミー系」のエサに強い反応を示すことも多い。「スイミー」はネバリとイメー

ジされがちだが、「へらスイミー」はバラケ性も良く、魚をタナに溜めることもできる。管理釣り場から野釣り場まで応用範囲は広い。

●パワー系ウドンセット

パワー系のチョーチン釣りは、強烈に魚を寄せて食わせる釣りなので上ズリも激しい。そこでバラケエサをしっかりと

とハリ付けしてどっぷりと深くなじませ、時にはウキを沈没させて上ズリラインを下げ、裏技も必要になる。沈没するくらいのエサを打ったときには、穂先でウキを吊るして止める方法と、縦誘いでバラケを促進させる方法がある。どちらにしても縦系に魚を寄せて「カチツ」と明確に入る強いアタリに絞り込むのがこ



の釣りのコツ。

また、くわせエサのウドンを安定させてハリスを張らすために、くわせエサのウドンはメガサイズ(デカウドン)で、ハリも大きいものにする。

●バラケとグルテンのセット釣り

早い釣りではなく、タナに魚を寄せてグルテンに反応させるので、バラケエサはあくまでもしっとりネバ系が良い。一旦深くウキをなじませて、バラケエサが抜け始めてからの変化には要注意が必要で、戻し際の「チクツ」アタリでヒットすることも多い。

新べらがグルテンに反応しているときには、段差幅を広くして上エサを早めにタナ入れ、下ハリスをゆっくりと落下させるとその途中で「フワッ」と食いアタリにつながることも多い。

ここが Q&A ポイント①

サワリがあるのになかなか食いアタリがでないとき

サワリがあって決めアタリがでなかったり、弱かったりするときは、まずくわせエサが確実にハリに付いているかをチェックします。確かめ方は、ウドンなどの固形物ならばアタリを見送って静かに竿を上げてみます。このときにくわせエサが付いてこなければ、水中で魚にもまれてハリ抜けしています。「感嘆」などのインスタントものならば硬く作り直します。

グルテンの場合は、同じような方法では竿を上げるときにハリ抜けしてしまいますので、バラケエサをハリ付けしないで、グルテンだけで打ってみます。そこでなじみ幅がでていればOKです。グルテンのときは「硬めで小さく」が基本になります。

また、エサ抜け以外ではハリが大き過ぎる・ハリスが短いなども考えられますので、ひとつひとつチェックしてください。



ここが Q&A ポイント②

アタリがあるのに釣れないとき



強いアタリがでていても釣れないときは、くわせエサがウドンの場合、エサが大き過ぎることがあります。食いが立って追いつくときならば、多少大きくくわせエサでも簡単に吸い込みますが、食い渋り時は強く吸い込まないことがあります。ワンサイズ小さくするか、より軽いものにチェンジします。

もうひとつは、サワリを多くほしいためにハリスを長くし過ぎると同じように空ぶることがあります。俗に言う「糸ズレ」です。ただ、どうしてもその長さのハリスが必要ならば、このようなときはハリを重いものにするとうハリスが水中で張って、食いアタリにつながるがあります。



レンジで簡単!

「魚信」の作り方

●用意するもの



「魚信」1分包、おかゆポンプ、ペットボトル、へら（割り箸でも可）、カップ。



ペットボトルに穴を開けておくことで、水の量が一定になり、太さが均一となる。



②

「魚信」1分包を入れたカップに水を入れる。水量は70〜100cc。好みの硬さで作る。



①

「魚信」1分包をカップにあける。



④

カップを電子レンジに入れる。時間は、電圧にもよるので、40〜1分ぐらいを目安に。



③

水を入れた後、粉が溶けるまでよくかき混ぜる。



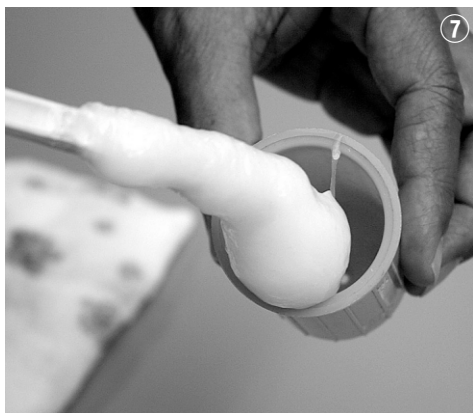
レンジに入れ、プクッと膨らんだらOK。



固まりだしたところで、ヘラでよく練る。この後もう一度レンジへ入れる。



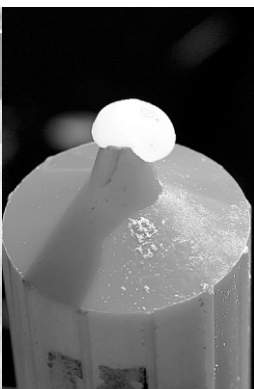
水を入れたペットボトルに「魚信」を絞る。



できあがった「魚信」をポンプへ入れる。



できあがった「魚信」は、適度な長さに切ってタッパーに入れて持参する。そのまま、ポンプ出しで使うのもOKだ。



全て絞り終わったら器にあける。

力と技。 2つのバラケ。



●セツト専用バラケ
400g チャック袋



●パワー・X
400g チャック袋

居並ぶライバルたちをものともせず、デカバラケで寄せまくる、攻めのパワーセツトには、圧倒的に開き、優れた集魚力を発揮する「パワー・X」。食い違った状況でも、ウキのナジミ幅と、抜けのタイミングを微調整し、魚との接点を見つけていく、繊細な技のセツトには、適度な重さと開きを備え、抜群のコントロール性能を発揮する「セツト専用バラケ」。

勝負のとき。
武運をもたらすのは、マルキューのバラケエサ。